

事前復興計画

公園指定解除地の活用を

まちづくり計画の中で検討

問 町内の県公園予定区域の一部が、今年から外れ、土地の活用が出来るようになった。

下田の口の蛸瀬川橋を田野浦方面に渡って県道海側の広い範囲の高台もその一部だ。

ここは、本町の南海トラフ巨大地震に備えるための大きな対策の一つとした、高台移転の候補地として当初から言われてきたところだ。

この土地を活用して宅地造成し、企業や病院な

ど誘致出来ればと考えるが、町の方向性は。

答 徳廣まちづくり課長

土佐西南大規模公園内の一部解除を、令和5年9月29日付で県が告示を行い、解除の手続きを完了した。

公園区域の解除に伴い、建築に関わる制限等も変わる。宅地化について検討の必要はあると考えているが、これには道路等ライフラインの整備が必要となる。

現在、事前復興まちづくり計画の取り組みが佐賀地区にて進行中で、今後は、大方地区でも展開される予定であり、この計画の取り組みの中で企業、病院などへの誘致を含め検討したい。

鳥打場休憩所付近から海側を望む。右下の県道中村田ノ口線の沿線左側一帯が公園指定区域外となっている（令和6年1月6日、田野浦）



交通網整備

町の公共交通の推進は 広域で使いやすさ実現へ

問 町での公共交通と、全体的な交通網のこれからのあり方と、高齢者等

免許返納者の生活面での不便さを、少しでも軽減させるための方針や、他の市町村での対応はどのようなになっているか。
またタクシーや代行タクシーなどの運行は町でできないか問う。

答 渡辺企画調整室長

町全体のバス利用者数は、新型コロナウイルス感染症が流行する前には年間約1万5400人だったが、コロナ感染症が流行中は、その3分の2程度の利用にとどまっていた。

今年度は約1万3700人が利用しており、感染症の影響から持ち直している傾向にある。運行距離や沿線の人口により、徐々に減ってきて



町内を運行しているデマンドバス

ている路線もあり、地域の状況で変化がみえる。通院や買い物などで定期的なバスを利用している方に、1日あたりの便数を増やし、利便性の向上を図りたいと考えている。また、タクシーについては、四万十市や宿毛市の方でも運行が少ないという問題と課題が共通しており、町単独ではなく広域で話が進められるよう考えていく。